

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目			<input checked="" type="checkbox"/>				
	1	2	3	4								
	●	●	●	●	科目名		看護学概論		担当講師	澁川悦子		
分野	専門		授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験						
単位数	1単位		時間	30時間	学年	1年次	学期	前期				
概要	24時間を繰り返しながら生活する人間の「からだ」と「こころ」を学生自身のからだや生活を振り返ることによって理解する。そして人間の健康状態はどのようにつくられるのかを理解し、健康が障害されるとどのような健康問題が生じるのか考えを発展させる。そして、人間を対象として行う看護とは何か、看護サービスを提供する仕組みや看護職の役割・機能・活動について理解するとともに援助者として必要な倫理について学ぶ。さらに、看護の基盤となる看護理論を学ぶ。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かを考えるとともに、看護の役割と機能が説明できる。 2. 看護学の主要概念（人間・健康・環境・看護・学習）が説明できる。 3. 看護の対象となる人間のこころと身体を理解し、健康状態を作り出す生活を説明できる。 4. 看護の歴史を学び、看護職の変遷と現状を理解するとともに今後の課題について考える。 5. 看護サービスの提供の仕組みについて理解する。 6. 看護の基盤となる看護理論を理解する。 											

回	主題	内容	学習方法
1	看護の本質	「看護とは」看護の定義、看護の変遷	講義・演習
2	看護の役割と機能	看護に対する社会の要望と期待、看護職の位置づけ	講義
3	看護の継続性と情報共有	看護職間および多職種間との連携と協働、チームでの活動	講義
4	看護の対象の理解	看護の対象の捉え方 対象との関係の形成	講義
5	国民の健康・生活の全体像の把握（1）	健康、生活、健康のとらえ方（メタパラダイムに関する学習）	講義・演習
6	国民の健康・生活の全体像の把握（2）	ライフサイクルと健康	講義・演習
7	看護の提供者	職業としての看護と看護職制度の現状 看護職の発展と今後の課題	講義
8	看護における倫理（1）	倫理とは 基本的人権、個人の尊厳、医療倫理原則（ICT）	講義・演習
9	看護における倫理（2）	患者の権利擁護、看護者の倫理綱領、倫理的葛藤（ジレンマ）と対応	講義・演習
10	看護のサービス提供の仕組み	看護の場に応じた活動 （在宅、医療施設、保健・福祉施設） 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	講義
11	看護理論（1）	理論の発達背景	講義
12	看護理論（2）	ナイチンゲールの看護理論、ヘンダーソンの看護理論	講義・演習
13	看護理論（3）	主な看護理論	講義・演習
14	看護理論（4）	主な看護理論	講義・演習
15	まとめ／終講試験／解答・解説		講義

評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学①「看護学概論」 「看護理論」看護理論21の理解と実践への応用	医学書院 南江堂
参考書	講義の中で指示をする	
備考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。	

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目			<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4				
	●	●	●	●				
科目名	基礎看護学援助論 I				担当講師	渡邊まどか		
分野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	前期	
概要	<p>看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。また、臨地の場では、専門的知識だけでなく、第一印象を求められている。社会人・医療人としての基本的な考え方や姿勢を認識することは大切である。本科目では、医療人としての接遇・マナーを学習し心のこもった立ち振る舞いができるよう学ぶ。また、人間関係構築の基本となる看護におけるコミュニケーション、看護実践の証明となる看護記録、対象の自立を支援するための学習支援を習得する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 挨拶の方法や表情・笑顔の作り方を理解する。 2. TPOに合わせた言葉遣いができる。 3. 患者の質問に対して適切な対応の方法を理解できる。 4. 看護におけるコミュニケーション技術が実施できる。 5. 看護記録の意義と目的、記録の方法が述べられる。 6. 対象の自立を促す援助としての学習支援の意義と目的を理解し、看護における学習支援の特徴が述べられる。 							

回	主題	内容	学習方法
1	社会人としての心構え 基本的接遇・マナー（1）	社会人基礎力からの考え方、挨拶、身だしなみ言葉遣い、お辞儀の仕方 就業中のマナー	講義
2	基本的接遇・マナー（2）	好感もたれる態度、表情、電話対応の基本	講義・ロールプレイ
3	医療職としてのマナー（1）	医療人として守るべきこと、接遇力、印象、表現方法	講義・ロールプレイ
4	医療職としてのマナー（2）	クレーム対応	講義・演習
5	ビジネス文章	ビジネス文書の種類と基本、書き方 ビジネス文章としてのメール、FAXの書き方	講義・ロールプレイ
6	看護技術とは	看護技術の特徴・適切に実施するための要素	講義
7	コミュニケーション技術（1）	看護におけるコミュニケーションの意義と目的・成立過程	講義
8	コミュニケーション技術（2）	関係構築のための効果的なコミュニケーションの基本	講義・演習
9	コミュニケーション技術（3）	関係構築のための効果的なコミュニケーションの実際	講義・演習
10	コミュニケーション技術（4）	コミュニケーション障害のある人への対応	講義・演習
11	看護記録（1）	看護記録の目的、法的規定、原則、記載時の注意点、看護記録の監査、看護記録の管理	講義
12	看護記録（2）	看護における報告 連絡 相談	講義・ロールプレイ
13	学習支援（1）	看護における教育的支援、対象者に合わせた目標設定	講義
14	学習支援（2）	看護における指導技術、対象者に合わせた目標設定	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「基礎看護技術 I」 医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		●	●	●
科目名	基礎看護学援助論Ⅱ				担当講師	堀米恭子		
分野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1単位	時間	15時間	学年	1年次	学期	前期	
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、看護行為を行う基本となる安全を守る技術として感染予防の技術を習得する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染防止の基礎知識としてスタンダードプリコーションの定義を述べられる。 2. 感染防止策（感染経路別予防策）の技術を習得する。 3. 無菌操作、感染性廃棄物の安全な取り扱いを習得する。 							

回	主 題	内 容	学 習 方 法
1	感染と感染症	感染症を成立させる要素と成立過程 感染予防の三原則／感染予防策（スタンダードプリコーション）	講義・演習
2	感染予防策（感染経路別予防策）	洗浄・消毒・滅菌	講 義
3	手指衛生の実際	衛生学的手洗い 手指消毒 個人防護用具の着脱	講義・演習
4	無菌操作	滅菌物の保管／滅菌物の取り扱い ／感染性廃棄物の取り扱い	講 義
5	無菌操作の実際	滅菌物／消毒綿球の受け渡し／滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱	演 習
6	技術の振り返り（評価含む）	衛生学的手洗い・個人防護用具の着脱	演 習
7			
8	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験（ 点）・技術評価（ 点）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」	医学書院	医学書院
参考書	講義の中で指示をする		
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。		

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		●	●	●
科目名	基礎看護学援助論Ⅲ				担当講師	船橋悦子		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	後期	
概要	看護は科学的根拠に基づく、系統的思考プロセスである。本科目では「看護理論」で学んだ理論をもとに、看護を科学的に展開するための思考プロセスを学ぶ。そして各看護学において、対象別の看護過程として展開させていく。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の系統的思考プロセスである看護過程の必要性を理解する。 2. 看護過程の各段階を理解する。 3. 看護においてなぜクリティカルシンキングの必要性を理解する。 4. 看護過程の展開方法を理解する。 							

回	主 題	内 容	学習方法
1	看護実践における看護過程	看護過程とは／看護過程の5つの構成要素／構成要素間の関連／看護過程で実践することの意義	講 義
2	看護過程展開の基盤となる考え方	問題思考過程／クリティカルシンキング／倫理的配慮と価値判断／リフレクション	講 義
3	看護過程の各段階（1）	アセスメント 情報の収集と分析/解釈、関連図	講義・演習
4			
5			
6			
7	看護過程の各段階（2）	看護問題の明確化 看護診断／看護問題の見極め／看護診断とは／NANDA-1・看護診断分類法Ⅱ領域と類／NIC・NOC／看護診断の種類／看護診断の表記方法／看護問題の優先順位／共同問題	講義・演習
8			
9			
10	看護過程の各段階（3）	看護計画の立案 目標・成果指標、OP/TP/EP 看護計画に基づいた援助の実施	講義・演習
11			
12			
13	看護記録と構成	POSとSOAP形式 看護記録の構成要素	講義・演習
14	看護過程の各段階（4）	看護計画実施の評価、サマリー（要約）	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験（ 点）・課題レポート（ 点）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」 看護が見える④看護過程の展開 第1版	医学書院 メディクメディア	
参考書	NIC、NOC NANDA-I 看護診断	医学書院	
備考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。		

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/>		
	1	2	3	4			
	●	●		●			
科目名	基礎看護学援助論Ⅳ			担当講師	楠山美由紀・渡邊まどか		
分野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	前期
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、倫理的配慮に基づいて安全安楽な療養生活を送るための日常生活の援助技術を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 療養生活の安全を脅かす要因を理解し、安全管理の援助技術を習得する。 3. 活動と休息の意義と必要性を理解する。 4. 活動範囲が狭まることで生じる危険や身体的・心理的苦痛を理解し、安全・安楽・自立を考慮した体位および体位変換・移動動作の技術を習得する。 						

回	主 題	内 容	学習方法
1	環境調整技術（1）	療養生活の環境 病室の環境調整・療養生活の安全確保	講 義
2	環境調整技術（2）	ベッド周囲の環境整備の実際	講義・演習
3	環境調整技術（3）	病床の作り方 ベッドメイキング・リネン交換	講 義
4	環境調整技術（4）	ベッドメイキング・リネン交換の実際	演 習
5			
6	環境調整技術（5）	ベッドメイキングの実際	演 習
7	活動・休息援助技術（1）	活動・休息の基礎知識 人間における活動と休息 活動に対する看護の役割 ボディメカニクス・褥瘡予防	講 義
8	活動・休息援助技術（2）	体位変換 1) 水平移動 2) 仰臥位から側臥位への移動 3) 仰臥位一長座位一端座位への体位変換 ポジショニング 安楽な体位	講 義
9	活動・休息援助技術（3）	体位変換の実際 1) 水平移動 2) 仰臥位から側臥位への移動 3) 仰臥位一長座位一端座位への体位変換 ポジショニング 安楽な体位	講義・演習
10	活動・休息援助技術（4）	移動・移乗・移送：車椅子、ストレッチャー （車椅子／ストレッチャー／歩行介助）	講義・演習
11	活動・休息援助技術（5）	車椅子の点検 ベッドから車椅子への移動・移乗 移動・移乗・移送の実際	講義・演習
12			
13	技術の振り返り（評価含む）	実技評価 1 ベッドメイキング 2 車椅子の移乗・移送	演 習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験（ 点）・技術評価（ 点）	
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」	医学書院 医学書院
参考書	講義の中で指示をする	
備考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。	

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		
	●	●		●		
科目名	基礎看護学援助論Ⅴ			担当講師	楠山美由紀	
分野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期 前期
概要	<p>基礎看護学技術は対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、対象を理解する第一歩である人間関係成のためのコミュニケーション技術を習得する。日常生活行動である食事・排泄行動を理解し、自立が脅かされたときの身体的・心理的苦痛からの倫理的配慮に基づいた食事・排泄の援助技術を習得する。</p>					
到達目標	<p>1. 食事の意義を理解し、栄養のアセスメントおよび食事援助の技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、排泄の援助技術を習得する。</p>					

回	主 題	内 容	学習方法
1	食事援助技術（1）	日常生活における食事の意義 栄養状態および摂食能力のアセスメント	講 義
2	食事援助技術（2）	日常生活における食事の援助 非経口的栄養摂取の援助	講義・演習
3	食事援助技術（3）	食事援助の実際 食事介助	演 習
4	排泄援助技術（1）	排泄の意義・排泄援助の基礎知識	講 義
5	排泄援助技術（2）	自然排泄の援助 排泄のアセスメントと方法	講 義
6	排泄援助技術（3）	床上排泄（便器・尿器）援助の実際	演 習
7			
8	排泄援助技術（4）	一時的導尿と持続的導尿について	講 義
9	排泄援助技術（5）	排便を促がす援助 グリセリン浣腸・摘便	講 義
10	排泄援助技術（6）	排泄経路の変更を伴うケアの方法	講 義
11	排泄援助技術（7）	床上排泄（おむつ）おむつ交換の実際	演 習
12			
13	技術のふり返し（評価含む）	排泄援助技術 評価・ふり返し	演 習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験（ 点）・技術評価（ 点）
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」 医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		
	●	●		●		
科目名	基礎看護学援助論Ⅵ			担当講師	根本弘美	
分野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期 前期
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、清潔・衣生活の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための日常生活援助技術を習得する。					
到達目標	1. 衣生活の意義を理解し、衣類を整える技術を習得する。 2. 清潔の意義と援助の必要性を理解し、身体の清潔を保持し安楽を高める技術を習得する。					

回	主 題	内 容	学習方法
1	清潔・衣生活（1）	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助 目的・清潔行動のアセスメント 援助方法の判断 援助方法の種類と特徴	講 義
2	清潔・衣生活（2）	入浴 全身清拭 目的・留意点と根拠 入浴の種類と方法 全身清拭の種類と方法	講義・演習
3	清潔・衣生活（3）	寝衣交換の実際	講義・演習
4	清潔・衣生活（4）	臥床患者の清拭の実際	演 習
5			
6	清潔・衣生活（5）	手浴・足浴・陰部洗浄 目的・留意点と根拠 手浴・足浴の種類と方法 陰部洗浄の種類と方法	講 義
7	清潔・衣生活（6）	臥床患者の足浴/端座位での足浴の実際 陰部洗浄の実際	演 習
8			
9	清潔・衣生活（7）	洗髪 洗髪の方法・留意点と根拠 種類と方法	講 義
10	清潔・衣生活（8）	洗髪の実際	演 習
11			
12	口腔ケア・整容	口腔ケア・整容の目的・留意点と根拠 種類と方法 臥床患者の口腔ケアの実際	講義・演習
13	技術の振り返り（評価含む）	全身清拭	演 習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験（ 点）・技術評価（ 点）
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」 医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		
	●	●		●		
科目名	基礎看護学援助論Ⅶ			担当講師	堀米恭子	
分野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期 後期
概要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、対象を理解する第一歩である人間関係成立のためのコミュニケーション技術と観察・フィジカルアセスメント技術を習得する。観察から得た情報から正しく評価し、臨床判断の基盤とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントの意義を理解し、基本的な技術を習得する。 2. フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解する。 3. 身体各部の形態や身体機能を正しく測定、評価する技術を習得する。 					

回	主 題	内 容	学習方法
1	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント フィジカルアセスメントの基本技術（問診 視診 触診 打診 聴診）	講 義
2	身体計測	身長・体重・胸囲・腹囲・視力・聴力など	講義・演習
3	フィジカルアセスメント（1）	消化器系のフィジカルアセスメント	講 義
4	フィジカルアセスメント（2）	消化器系のフィジカルアセスメント実際	講 義
5	バイタルサイン（1）	バイタルサインのアセスメント（1）意識・体温	講義・演習
6	フィジカルアセスメント（3）	感覚・脳神経・運動系のフィジカルアセスメント	講義・演習
7	バイタルサイン（2）	バイタルサインのアセスメント（2）脈拍	講義・演習
8	バイタルサイン（3）	バイタルサインのアセスメント（3）呼吸	講 義
9	フィジカルアセスメント（4）	呼吸器系のフィジカルアセスメント実際	講義・演習
10	フィジカルアセスメント（5）	バイタルサインのアセスメント（4）血圧	講義・演習
11	バイタルサイン（4）	バイタルサインの測定の実際	演 習
12	バイタルサイン（5）	循環器系のフィジカルアセスメント実際	講義・演習
13	技術の振り返り（評価含む）	バイタルサイン測定	演 習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験（ 80 点）・技術評価（ 20 点）
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「フィジカルアセスメントガイドブック」 医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4				
	●	●	●			実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
科目名	地域で暮らす人の理解				担当講師	湯浅みゆき		
分野	専門	授業方法		講義		実務経験	看護師としての実務経験	
単位数	1単位	時間	15 時間	学年	1年次	学期	後期	
概要	<p>地域看護の対象となる個人・家族・集団・コミュニティ（地域）を理解するため「水高スクエア」内で生活する人々・施設を対象としたフィールドワークを行う。そのため、地域の歴史、文化、自然・地理的環境、コミュニティ（地域）を把握し、地域社会の制度や施設を関連づけて、包括的な視点で地域を捉えることを体験を通して学ぶ。そして、地域看護の主要概念であるヘルスプロモーション、エンパワメント、地域包括ケアシステムなどの基本的な知識と関連づけ、水高スクエア内の人々のライフサイクルや健康レベルについて考える。また、疾病予防や健康を保持する活動から、地域で生活を営む人々の健康観について考え、地域で生活する人々の健康を支援するために必要な基盤的知識を生活者の視点から学ぶ。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の生活の場としての「地域」をフィールドワークを通して説明する。 2. 地域で生活する人々の生活と健康を支える視点を自助・互助・共助・公助と関連づけて述べる。 3. 地域で暮らす人々の健康ニーズを様々な健康レベルから説明する。 4. ライフサイクルに応じた疾病予防と健康保持の意義を述べる。 5. 看護学生として自己の健康観を述べる。 							
回	主題		内 容			学習方法		
1	地域における暮らしと健康		地域に暮らす人々のアセスメント、地域社会の制度・施設			講義・演習		
2	地域で暮らす人々の暮らしと生活上のニーズ		地域特性（リサーチ）・地域地図作成 住みよい町			講義・演習		
3								
4	地域の人々のライフステージとさまざまな健康観		水高スクエア内の各施設訪問インタビュー・ 外来インタビュー			演 習		
5								
6								
7	地域包括ケアシステムにおける生活者の暮らしと健康ニーズ		各施設紹介、各施設利用者のライフサイクル、健康レベル、健康観、健康課題			演 習		
8								
評価方法	パフォーマンス評価（ルーブリック）、講義・演習の態度・参加状況も含む							
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論「地域・在宅看護の基盤」 医学書院							
参考書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1「看護学概論」 医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3]「社会保障・社会福祉」 医学書院							
備 考	*教科書を事前に読み予習しておく。演習・フィールドワーク後のワークシートの内容は整理し復習しておく。							

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
	1	2	3	4					
	●	●	●	●					
科目名	成人看護学概論				担当講師	船橋悦子			
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験				
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	後期		
概要	<p>成人期にある対象をライフサイクルや生涯発達、生活者の視点から捉えるとともに、現在の社会の中で生活する成人の、健康や生活を捉え、それを支える看護について学習する。 演習を通して成人期にある自己を振り返りながら、健康問題に対する理解を深める内容とし、対象の健康を維持・増進するための方策を、ヘルス・プロモーションの概念を基に理解する内容とする。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある対象を理解する。 2. 成人期に特有の健康問題について理解する。 3. 成人期の健康問題への看護アプローチを理解する。 4. ヘルスプロモーションの概念を基に成人の健康を理解する。 								

回	授 業 計 画 ・ 内 容		学習方法
1	成人期にある対象の理解	成人とは	講 義
2	成人各期における対象の特徴	青年期・壮年期・向老期	講 義
3	成人の生活と健康	家族形態と機能、家族支援	講 義
4	成人の生活と健康	成人を取り巻く社会状況の変化	講 義
5	成人に特有の健康問題の特徴（1）	生活習慣・生活ストレスに関連する健康障害①	講 義
6	成人に特有の健康問題の特徴（2）	生活習慣・生活ストレスに関連する健康障害②	講 義
7	成人に特有の健康問題の特徴（3）	生活習慣・生活ストレスに関連する健康障害③	講義・演習
8	成人への看護アプローチ（1）	成人学習の特徴とアンドラゴジー	講 義
9	成人への看護アプローチ（2）	ヘルスプロモーションと保健行動	講義・演習
10	成人への看護アプローチ（3）	病みの軌跡	講義・演習
11	成人への看護アプローチ（4）	変化のステージモデルと健康信念モデル	講 義
12	成人への看護アプローチ（5）	自己効力理論	講 義
13	成人への看護アプローチ（6）	意思決定支援と危機理論	講 義
14	成人期にある対象の看護実践の倫理	看護倫理、倫理的判断の基盤	講 義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講 義

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座「成人看護学総論」	医学書院	
参考書			
備考			

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>
	1	2	3	4		●	●	●
科目名	成人看護学援助論 I				担当講師	楠山美由紀		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験			
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	後期	
概要	<p>慢性的な経過をたどる健康障害、いわゆる慢性疾患を有する人および家族は、生涯にわたって疾病と付き合うこととなる。そのため疾病と共生し、その人らしい社会生活を持続させるための疾病・治療のコントロールやセルフマネジメント能力が必要となる。</p> <p>本科目では、看護実践を展開していく際に必要な病態の理解、基盤となる理論や概念に基づき、慢性疾患とともに生活している人を支え、セルフマネジメント能力を高める援助方法や看護技術、社会資源の活用について学習する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. セルフマネジメントが必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 慢性疾患がライフサイクルに及ぼす影響と、対象のニーズに合わせた看護の特徴を理解する。 3. 生涯にわたって生活調整を必要とする対象の、セルフマネジメントに向けた統合的アプローチを理解する。 							

回	主 題	内 容	学習方法
1	慢性期にある人の特徴および看護の特徴	慢性期疾患の特徴 セルフマネジメントの概念	講 義
2	セルフマネジメントが必要な対象の理解	セルフマネジメントの構成要素 継続的な学習支援と連携	講 義
3	セルフマネジメントを目指す看護の実際（1）	循環機能障害がある人の看護	講義・GW
4			
5	セルフマネジメントを目指す看護の実際（2）	呼吸機能障害がある人の看護	講義・GW
6			
7	セルフマネジメントを目指す看護の実際（3）	代謝内分泌機能障害がある人の看護	講義・GW
8			
9			
10	セルフマネジメントを目指す看護の実際（4）	腎機能障害がある人の看護	講義・GW
11			
12			
13	セルフマネジメントを目指す看護の実際（5）	免疫機能障害がある人の看護	講義・GW
14			
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講 義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学②③⑥⑧⑩ 医学書院
参考書	
備考	

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目	<input checked="" type="checkbox"/>	
	1	2	3	4			
	●	●	●	●			
科目名	老年看護学概論			担当講師	関 茂之		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時 間	30時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	<p>成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに最期を迎えるべき段階である。長い人生経験と知恵、及び個人の生き方・価値観を尊重し、個別な存在として理解する必要がある。本科目では、加齢に伴う心身の変化や生活の変化を踏まえながら、高齢社会における保健・医療・福祉の現状と今後の課題について学ぶことを通して、高齢者の理解を深めていく。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴と加齢に伴う変化を理解する。 2. 高齢社会の医療・保健・福祉の変遷を理解する。 3. 高齢者看護の役割と特徴を理解する。 						

回	主 題	内 容	学 習 方 法
1	「老いる」ということ	身体的・精神的・社会的側面の変化（1）	講 義
2		身体的・精神的・社会的側面の変化（2）	講 義
3		高齢者体験	演 習
4	老いを生きるということ	高齢者の定義、老年期の発達課題	講 義
5	超高齢社会と社会保障	超高齢社会の現況	講 義
6	高齢社会における 保健医療福祉の動向	保健医療福祉制度の変遷	講 義
7		介護保険法、高齢者医療確保法	講 義
8	高齢者の権利擁護	エイジズム、高齢者虐待、身体拘束	講 義
9		自己決定権、成年後見制度、日常生活自立支援事業	講 義
10	高齢者とヘルスプロモーション	老年期のヘルスプロモーション	講 義
11	高齢者のリスクマネジメント	高齢者と医療安全、高齢者と災害	講 義
12	高齢者と家族	家族の発達課題、レスパイトケア	講 義
13	老年看護の役割	諸理論・概念 エイジズム、エンパワメント、ストレングスモデル、ライフヒストリー、コンフォート理論	講 義
14		エンドオブライフケア、アドヴァンスケアプランニング	講 義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験・レポート

評価方法	客観試験		
教科書	系統看護学講座 専門分野 「老年看護学」 根拠と事故防止からみた老年看護技術 第3版	医学書院	医学書院
参考書	国民衛生の動向	厚生統計協会	
備 考			

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー					実務経験のある教員等による授業科目		<input checked="" type="checkbox"/>	
	1	2	3	4					
	●	●	●						
科目名	小児看護学概論				担当講師	神 清美			
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験				
単位数	1単位	時間	30時間	学年	1年次	学期	後期		
概要	<p>少子高齢化に伴い、子どもを取り巻く環境は変化している。子どもは、同胞あるいはさまざまな年齢の人々との関りが減り、社会性が育まれにくい環境にあり不登校や心身症の子どもが増加している。また核家族化に伴い地域に子育て支援者がいないことが、育児期の親の負担感や孤立感を増大させ、育児不安や児童虐待などの深刻な問題となっている。</p> <p>小児期は絶え間ない成長発達をとげる時期であり、小児期の過ごし方はその後の身体的・精神的・社会的発達や健康生活に大きく影響を与える。これからの時代を生きる子どもたちが健やかに育っていくことは人類の願いであり、ライフサイクルから見た小児各期の特徴を理解するとともに、成長発達の形態的成長、機能的・精神的発達を学ぶ。また子どもの健康な発達を支える社会、環境、法律を学ぶ。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長発達の特徴と基盤となる概念を述べる 2. 子どもと家族の関係を述べる 3. 小児看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、小児看護の役割を述べる 4. 1人の人として子どもを尊重し、社会の中で健やかに成長し生きていくことができるよう看護を提供する必要性を理解する 								

回	主 題	内 容	学習方法
1	小児看護の対象となる子どもと家族	小児看護の対象の特徴	講義・演習
2	子どもの成長発達の基本となる原則	成長発達の概念、成長発達の原則と進み方	講義・演習
3	小児期各時期の成長発達の特徴	発達課題と発達理論、エリクソン	講義・演習
4	乳児期、幼児期、学童期、思春期の成長発達と看護 各時期の成長発達の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的成長と機能的発達の評価 ・ 身体発達の評価 ・ 発達検査 ・ 心理・社会的発達の評価 ・ 発達に影響を及ぼす養育環境 ・ 器官系統的成長発達の特徴 ・ 社会性、道徳性、コミュニケーション、認知、思考の特徴 ・ アタッチメントと分離不安 	演 習
5			
6			
7			
8			
9	子どもにとっての遊び	子どもにとっての遊びの種類と意義	講義・演習
10	子どもと家族をとりまく社会	母子保健施策の活用 小児保健医療福祉施策の活用	講義・演習
11	児童福祉法の変遷と子育て支援制度	児童福祉法・子育て支援	講義・演習
12	小児看護における倫理・権利	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児医療における子どもの権利の変遷 ・ 小児医療、小児看護における倫理的配慮 ・ 子どもの虐待防止 	講義・演習
13			講義・演習
14	小児看護の目標と役割	小児看護の変遷と課題、子どもと家族の健康課題	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験、育児ノート

評価方法	客観試験、育児ノート
教科書	系統看護学講座 専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医学書院
参考書	
備考	

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー				実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/>		
	1	2	3	4			
	●	●	●				
科目名	母性看護学概論			担当講師	森 裕子		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	助産師・看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時間	30 時間	学年	1年次	学期	後期
概要	母性看護の対象は女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもが生まれるあるいは乳幼児を育てる家族、その家族が生活する地域社会を含んでいる。次世代が健康に生まれ育つことが普遍的な人間の願いであり時代の変遷とともに母親への支援が質的・量的に変化している。これは同時に女性の生涯の役割の多様化、医学の進歩・発展・晩産化と少子高齢化、母子をめぐる生活環境の著しい変化、グローバル化をリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から理解し今後の課題を考察する						
到達目標	1. 母性看護の概念と母子保健の動向について理解する 2. 性の側面からとらえたライフサイクル各期の特徴と看護について理解する 3. 母性看護の役割・課題について考える						

回	主題	内容	学習方法
1	母性看護の基盤	母性とは父性とは 母子関係と家族発達	講義
2	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション	講義
3	母性看護のあり方	母性看護における倫理 少子化の進行と課題	講義
4	母性看護の変遷と現状(1)	母子保健統計の動向	講義
5	母性看護の変遷と現状(2)	母性看護の歴史的変遷と法律	講義
6	母性看護の対象理解(1)	性周期と妊娠の成立	講義
7	母性看護の対象理解(2)	女性のライフサイクルと家族	講義
8	ライフステージ看護	ライフステージ各期の看護	講義
9	リプロダクティブヘルスケア	性感染症 児童虐待 国際看護	講義
10	母性看護の対象の現状と今後の課題	高齢出産/少子化/不妊	講義・演習
11		高齢出産/少子化/不妊	講義・演習
12		高齢出産/少子化/不妊	講義・演習
13		高齢出産/少子化/不妊 今後の課題	演習
14		高齢出産/少子化/不妊 今後の課題	演習
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講義

評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する		
教科書	系統看護学講座 専門分野「母性看護学概論」	医学書院	
参考書	国民衛生の動向	厚生労働統計協会	
備考	※グループワークでは授業の振り返り、テーマに沿ったまとめ学習をする ※グループワーク発表では学生間で協力し発表資料を作成する ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい		

2025年度 講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー								
	1	2	3	4	実務経験のある教員等による授業科目				
	●	●	●	●	<input checked="" type="checkbox"/>				
科目名	基礎看護学実習 I				担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者			
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験				
単位数	1 単位	時間	45 時間	学年	1年次	学期	前期・後期		
概要	健康障害をもつ人を理解し、状態に応じた看護を実施するために、1年次前期では、療養の場である病院見学を通し、療養環境や看護師の役割を学ぶ。1年次後期では、健康障害をもつ人の日常生活援助の実施を通し、援助の実際を学ぶ。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ対象の療養環境を説明する。 2. 日常生活環境と療養環境の違いを説明する。 3. 療養生活を送る対象の気持ちを表現する。 4. 看護の実際を見学し、看護師の役割を考える。 5. コミュニケーションを通し対象の気持ちを考える。 6. 意図的に必要な情報を収集する。 7. 対象に必要な日常生活の援助計画を立案する。 8. 対象の安全安楽を考慮した日常生活援助を実施する。 9. 実施した日常生活援助を振り返り修正する。 10. 学習者として責任ある態度を表現する。 								
時間	授 業 計 画 ・ 内 容								
15	12時間（6時間×2日）の臨地実習と、3時間（1日）の学内実習で構成される。 健康障害をもつ対象の療養生活を理解するとともに、看護の実際を知る。								
30	24時間（6時間×4日）の臨地実習と、6時間（1日）の学内実習で構成される。 健康障害をもつ対象の日常生活に必要な援助を実施するための基礎的な知識・技術・態度を養う。								
評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。								
教科書									
参考書									
備考									